

カーネギー・ホール (1947)

CARNEGIE HALL

メディア 映画

ジャンル ドラマ 音楽

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 135分

初公開日 1952/01/25

公開情報 U A = 松竹洋画部

【解説】

カーネギー・ホールの掃除婦ノラ（ハント）は若いピアニスト・トニーと結婚して息子をもうけたが、夫は仕事に悩んで泥酔し階段から転落死してしまう。以来、彼女は夫と同じ名をつけた息子の成長だけを楽しみに後家を守り通す。彼女はカーネギー・ホールにこだわり続け、掃除婦の仕事に戻ったが、それというのも音楽に囲まれたその環境は、息子に夫と同じピアノの道を歩ませるのには最適だったからだ。……と言った人情話を縦糸に、クラシック音楽の殿堂に集まった贅沢な顔ぶれの演奏がずらり。それも非常に高水準で、映像のボリューム感も生半可ではない。謎めいたキャリアの持ち主、早撮りの帝王と言われた流浪のB級監督ウルマーの素養には、こんな大向こうを唸らせる所があったのだ。安っぽいがなんとも夢幻的な、ヒロインの住むアパートのシルエットが幾度も挿入され、ドイツ表現主義の美術監督あがりの個性も見せる。演奏での聞き物はルービンシュタインの“英雄ポロネーズ”や“ニューレンベルクのマイスター・ジンガー”序曲。ドラマ部分でつま弾かれる小曲にも味わい深いものが多い。パッケージの貧弱さに比して、内容の濃い立派な音楽映画。

【クレジット】

監督	エドガー・G・ウルマー	Edgar G. Ulmer
製作	ウィリアム・ルバロン ボリス・モロス	William LeBaron Boris Morros
原作	シーナ・オーウェン	Seena Owen
脚本	カール・カム	Karl Kamb
撮影	ウィリアム・J・ミラー	William J. Miller
音楽	ジグムンド・クラムゴールド	Sigmund Krumgold
出演	ハンス・ヤーライ マーシャ・ハント ウィリアム・プリンス フランク・マクヒュー マーサ・オドリスコル ヤッシャ・ハイフェッツ レオポルド・ストコフスキー リーゼ・スティーヴンス	Hans Jaray Marsha Hunt William Prince Frank McHugh Martha O'Driscoll Jascha Heifetz Leopold Stokowski Rise Stevens